



トピックス



2014年(平成26) → 2022年(令和4)

◆リニューアルの実施

リニューアルの実施履歴

2014年(平成26)	12月1日～2015年(平成27)3月27日	常設展示室改修工事のため常設展示室を休室
2015年(平成27)	3月9日～3月27日	常設展示室改修工事のため全館休館
	3月28日	常設展示室リニューアルオープン
2017年(平成29)	9月1日～	ホール改修工事のためホール事業休止
	10月1日～2018年(平成30)3月31日	ホールなど改修工事のため全館休館
2018年(平成30)	4月	常設展示室、特別展示室、図書室再オープン
2019年(令和元)	7月1日	会議室・学習室1、2の貸出開始
	8月1日	ホールリニューアルオープン、大・小ホールの貸出開始
2022年(令和4)	4月1日～	大規模改修工事のため全館休館

常設展リニューアル

常設展示室では開館以来、月次の展示替を継続し、体験模型を整備、落語や邦楽を実演するなど、「生々発展する博物館」を目指してきた。しかし時間の経過と共に、施設の劣化や手法の陳腐化が進んだため改修工事を行い、1年3か月の休館を経て、開館22年目の2015年(平成27)3月28日にリニューアルオープンした。

リニューアルの実施にあたっては、研究成果の進展や来館者のニーズ、各所からの意見を参考に、館内で検討を重ねながら進めた。

主な変更点は、幕末維新时期を扱う展示コーナー「江戸から東京へ」と、2000年代までを対象年代とする展示コーナー「現代の東京」、各種ワークショップの会場となる「ミュージアム・ラボ」を新設したことである。さらに、既存展示コーナーにおいても、項目・内容の組み替えを行うほか、照明のLED化、ケースの内装材交換、展示ステージの低床化、覗きケースの免震化、ウォールケースの新設などを行い、展示環境の改善を図った。

併せて、「幕末の江戸城―本丸・二丸御殿―(模型)」「玉川上水流域(模型)」「ひばりが丘団地(模型)」を新設し展示内容を刷新したほか、既存の「棟割長屋(模型)」を増築して建物全体を復元、

井戸、芥溜、雪隠なども配置し、生活のあり様を体感できるようにした。

加えて、展示コーナー「江戸の商業」に体験資料を集中的に配置。「寿司の屋台」「蕎麦屋の屋台」と「棒手振の売り物」を新設、既設の「千両箱」も合わせて配置し、鑑賞から体験へ視点を変えていただくようにした。このほか各所に配置した体験模型も、来場者の感覚に訴えるよう工夫した。

グラフィック表示の刷新も図った。サイン表示では、鉄道駅や大規模店舗などを見做ったデザインで、来館者が直観的に情報を得られるように工夫した。またコーナー解説パネルは、パネルでの日英表記に加え、タブレット型のコンピューターを設置し、中(簡体字)・韓・仏・西の各言語を選択表示できるようにした。

その後6年余りの期間でタブレットの対応言語数を13言語まで増やし、多様なワークショップを行うなど、改善を重ねながら常設展示室を運営してきた。2025年(令和7)度(予定)の大規模改修後においては、ランドマーク性のある展示物や直観的な演出を増やし、更なる体感性の向上を図る見通しである。



ひばりが丘団地(模型)



「現代の東京」コーナー

ホールリニューアル

東京都知事の附属機関である東京芸術文化評議会において、東京都の文化施設として伝統芸能の拠点である和の空間が必要との意見があり、伝統芸能検討部会での検討を経て、江戸東京博物館の既存の二つのホールが改修されることとなった。

2017年(平成29)10月からの改修工事により、既存の「ホール」は、舞台裏を行き来できる通路の設置や^{どんちゅう}緞帳の整備、舞台照明設備の拡充などがされ、「大ホール」に改称された。併せて楽屋も舞台寄りの位置に再整備された。また、展示と連携した運用をしてきた「映像ホール」は、仮設の舞台、舞台照明、楽屋などが設置され、新たに

「小ホール」となった。いずれのホールも天井の耐震化などの安全対策とともに、椅子や内装が伝統芸能公演にふさわしい和の空間に改装され、伝統芸能公演に必要な備品類も整備された。

運用については、東京都が調査を行って検討し、終了時間の延長(21時→22時)、利用時期の約1年前に会場が予約可能、予納金が徴収可能となった。

2018年(平成30)9月から利用団体の登録受付、貸出受付を開始し、2019年(令和元)8月に両ホールがリニューアルオープン、その後は伝統芸能公演団体を中心に、広く利用されている。



ホール (2017年10月廃止)



大ホール



映像ホール (2017年10月廃止)



小ホール

◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

新型コロナウイルスの感染が世界に拡大する中、2020年(令和2)夏に予定されていた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、開幕まで4か月を切ったタイミングで1年延期となった。その後、大会は2021年(令和3)7月23日～9月5日の開催が決定したが、感染拡大の影響を受け、ほとんどの競技が無観客で開催されることとなった。

江戸東京博物館では、来る大会に向け、多言語対応のため、常設展示室の解説端末及び音声ガイドを13か国語に拡充した。施設のバリアフリー面では、女子トイレ内にあったおむつ交換台を、だれでもトイレ(車いすトイレ)内に変更する対応をとった。

また、隣接する両国国技館が、大会のボクシング競技会場となった影響で、大会関連設備が当館の敷地内に設置されることになり、2021年(令和3)5月から9月末までの間、一階正面玄関を閉鎖し、2021年(令和3)4月から9月末までの間、団体バスの駐車場使用を不可とし、大会期間中はセキュリティ対策のため来館者の手荷物検査を実施するなど、平常時とは異なる館運営を行うこととなった。一方、大会を盛り上げるとともに、大会が日本文化、特に伝統文化の魅力の世界に発信する絶好の機会としてとらえ、ホールなどを活用して日本の文化多様性を表現するためにさまざまな伝統芸能などのプログラムなどを実施した。

◆新型コロナウイルス感染症への対応

東京都における新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言、まん延防止等重点措置発令期間の履歴

2020年(令和2)	4月7日～5月25日	緊急事態宣言
2021年(令和3)	1月8日～3月21日	緊急事態宣言
	4月12日～4月24日	まん延防止等重点措置
	4月25日～6月20日	緊急事態宣言
	6月21日～7月11日	まん延防止等重点措置
	7月12日～9月30日	緊急事態宣言
2022年(令和4)	1月21日～3月21日	まん延防止等重点措置

新型コロナウイルス感染症への対応履歴

江戸東京博物館		江戸東京たてももの園	
2020年(令和2)2月29日～5月31日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館	2020年(令和2)2月29日～5月31日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休園
2020年(令和2)6月2日	再開館 常設展示室、特別展示室の収容人数を50%以下(常設展示室1,800人、特別展示室250人)に制限	2020年(令和2)6月2日	再開園
2021年(令和3)4月25日～5月31日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館	2021年(令和3)1月2日～5月31日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休園
2021年(令和3)6月1日	再開館	2021年(令和3)6月1日	再開園
		2022年(令和4)1月11日～3月21日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休園
		2022年(令和4)3月22日	再開園

展覧会事業への影響

江戸東京博物館	
①特別展 江戸ものづくり列伝 —ニッポンの美は職人の技と心に宿る— 当初予定の2020年(令和2)2月8日～4月5日が2月28日の閉幕に変更となった	
②特別展 奇才—江戸絵画の冒険者たち— 当初予定の2020年(令和2)4月25日～6月21日が6月2日の閉幕に変更となった	
③特別展 大江戸の華—武家の儀礼と商家の祭— 当初予定の2020年(令和2)7月11日～9月22日は開催中止 2021年(令和3)7月10日～9月20日に会期を変更して開催した	
④特別展 縄文2021—東京に生きた縄文人— 当初予定の2020年(令和2)10月10日～12月6日は開催中止 2021年(令和3)10月9日～12月5日に会期を変更して開催した	
⑤特別展 国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 天地創造の神話 当初予定の2021年(令和3)1月2日～4月4日が2020年(令和2)11月21日の閉幕に変更となった	
⑥特別展 富嶽三十六景への挑戦 北斎と広重 当初予定の2021年(令和3)4月24日～6月20日が4月25日～5月31日の間休止となった	

⑦企画展 市民からのおくりもの2019 —平成30年度 新収蔵品から— 当初予定の2020年(令和2)3月10日～5月10日は開催中止 2020年(令和2)8月4日～9月27日に会期を変更して特別展として、特別企画『『青』でみる江戸東京』とあわせて1階特別展示室で開催した(入場無料)
⑧企画展 発掘された日本列島2020 新発見考古速報 当初予定の2020年(令和2)6月6日～8月10日が2020年(令和2)6月13日～8月3日に会期が変更となった

江戸東京たてももの園	
①特別展 ぬくもりと希望の空間～大銭湯展 当初予定の2020年(令和2)3月3日～9月27日が6月2日の閉幕に変更となった	
②特別展 ぬくもりと希望の空間～大銭湯展 2期 当初予定の2020年(令和2)10月24日～2021年(令和3)1月31日が2020年(令和2)12月24日の閉幕に変更となった	
③特別展 ぬくもりと希望の空間～大銭湯展 3期 当初予定の2021年(令和3)2月27日～5月30日が開催中止となった	
④特別展 縄文2021—縄文のくらしとたてももの— 当初予定の2021年(令和3)10月9日～2022年(令和4)5月29日が2022年(令和4)1月11日～3月21日の間休止となった	

教育普及事業などへの影響

江戸東京博物館

ミュージアムトーク

- ・2020年(令和2)3月～9月、2021年(令和3)5月、8月～9月の間一時休止
- ・2020年(令和2)11月以降は参加人数を20名以内、所要時間を15分に縮小して実施

ボランティア

- ・2020年(令和2)3月～10月 ボランティア活動の休止
- ・2020年(令和2)3月以降 ふれあい体験教室の休止(代わりに職員によるワークショップを実施)

えどはくカルチャー

- ・臨時休館中の講座を中止

江戸東京たてもの園

- ・ミュージアムトークの休止
- ・ボランティア活動の休止

- ・学校連携事業(体験学習、職場体験、インターンシップなど)の規模縮小・休止、情景再現事業の休止、規模縮小(対面での製作・解説、盆踊り・神輿・音楽イベントなどの休止)
- ・2020年(令和2)3月22日～28日 たてもの園フェスティバル開催中止
- ・2020年(令和2)5月4日・5日 こどもの日イベント開催中止
- ・2020年(令和2)8月15日・16日 夜間特別開園たてもの園下町夕涼み開催中止
- ・2021年(令和3)1月2日・3日 正月特別開園江戸の正月を楽しもう開催中止
- ・2021年(令和3)1月9日・10日 正月の昔あそび開催中止
- ・2021年(令和3)1月11日 成人の日はたてもの園へ開催中止
- ・2021年(令和3)3月28日 たてもの園フェスティバル開催中止
- ・2021年(令和3)8月14日・15日 夜間特別開園たてもの園下町夕涼み開催中止
- ・2022年(令和4)3月28日 たてもの園フェスティバル開催中止

施設利用への影響

江戸東京博物館

図書室

- ・2020年(令和2)6月以降 図書室の座席数を約1/3(12席)に制限

貸出施設

- ・ホール、会議室、学習室の貸出休止(2020年[令和2]1月8日～3月21日、2021年[令和3]2月28日～6月12日、2022年[令和4]4月25日～5月31日)
- ・利用者へ貸出施設利用の中止もしくは延期を要請(2020年[令和2]2月29日～5月11日)

- ・感染状況に応じて貸出施設の収容人数を無観客もしくは50%に制限、時間短縮を実施(ホール21時まで、会議室・学習室20時まで)(2021年[令和3]1月8日～8月22日)

映像ライブラリー

- ・席数を半分(端末7台)にして運営

江戸東京たてもの園

- ・展示室内の入室制限
- ・ビジターセンター多目的スペースの利用休止
- ・水栓、井戸の利用休止
- ・飲食施設での換気、席数の間引き
- ・復元建造物内の入場制限、一方通行動線、一部狭い居室や2階などへの立ち入り休止

○各施設や事業ごとの対応は以下の通りである。

【施設管理】

江戸東京博物館・江戸東京たてもの園は、感染拡大防止対策として国の緊急事態宣言や都からの要請により臨時休館を実施した。

休館にあたり、来館者・貸出施設利用者などへの周知、キャンセル及び、利用料金払戻し対応などに追われた。また、長引く緊急事態宣言による休館対応のため、委託事業者と休館中に必要な業務や再開館に向けた人員体制の確保について協議を重ねた。

感染症対策としては、日本博物館協会提言の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(検温、マスク着用、消毒液設置など)に準拠した対策を実施し、ウェブサイトでのチケット事前予約制を特別展示室に続き常設展示室にも導入した。また、シルバーデーなどのサービスは2020年(令和2)より休止となった。

2020年(令和2)度以降の来館者数は、コロナ禍以前と比べ4分の1程度に減少した。しかし、緊急事態宣言後に再開館を待ち望んでいたお客様をお迎えすることができた際は、一同嬉しさとともに身の引き締まる思いであった。

(江戸東京博物館 管理課 管理係・平野悦子)

【常設展示室】

当館の常設展は、貴重な資料と、調査研究の成果を反映させた精巧な模型やさまざまな体験アイテムにより、楽しみながら学べる展示を目指している。しかし、コロナ禍では、観覧者や従業員への感染防止を最優先させた。

2020年(令和2)の新型コロナウイルス感染症拡大の当初、この未知のウイルスに対し、基本的な感染防止対策を講じても、接触感染、飛沫感染の恐れが払拭できないことから、「大名の駕籠」など人気の体験アイテムや解説補助ツールは、使用を制限あるいは停止した。音声ガイドは、使用台数を半減させ、アルコール消毒の徹底を図った。2021年(令和3)3月1日に、体験アイテムや各種ツールの他、手すり、カウンターや椅子、トイレなど人の手が触れる場所に、光触媒による抗ウイルス・抗菌のコーティングを施した。感染防止対策を強化し、同月16日には、ほぼコロナ前の状態で常設展が運営できるまでに回復した。

常設展示室では、伝統芸能の継承・普及及び展示室の賑わいを演出する「えどはく寄席」をはじめ、さまざまな教育普及活動も実施している。臨時休館及び事業の一時休

止期間は、オンラインで動画配信を行うなど、コロナ禍における博物館活動の取組を模索した。

(江戸東京博物館 事業企画課 展示事業係・熊谷紀子)

【図書室】

展覧会事業の休止に伴い、館内施設の一つである図書室も2020年(令和2)2月29日より休業した。当初は電話・手紙でのレファレンスサービスと職員の調査研究に関する利用を継続していたが、4月7日の緊急事態宣言発令を受け、6月2日の再開までの約2か月間は完全に休業した。

休業中は再開へ向けた運用の検討を進め、政府・都の発表や日本図書館協会・日本博物館協会の感染予防ガイドラインを基にオンライン会議で検討を重ね、刻々と変わる感染状況に合わせて調整と準備に取り組んだ。

再開にあたり当室では、江戸博入館時の検温・手指の消毒・マスクの着用を徹底したうえで、図書室では座席数の削減と混雑時に入場制限を行うことで、事前予約は不要とする比較的ゆるやかな制限での利用とした。その分、机・椅子などの什器から鉛筆に至るまで1日3回、かつ使用ごとに消毒を行い感染防止に努めた。室内の消毒には毎日多くの時間を要し、職員への負担も少なくなかったが、再開を歓迎する声と利用者数の多さが原動力となった。

実際に当室の利用者数の減少幅は小さく、他の図書施設から流れてきたであろう利用者も多く見受けられ、資料と人を結びつけるという当館図書室の使命をあらためて実感した。(江戸東京博物館 都市歴史研究室・小宮山めぐみ)

【えどはくカルチャー】

えどはくカルチャーでは2020年(令和2)2月の講座から、マスク着用の掲示や消毒用アルコールの設置、会場の扉の開放を行いながら実施したが、同年3月からの臨時休館に伴い講座も中止となった。休館中は、講座中止の案内や受講料の払い戻しをする一方、再開時期の調整と、ガイドラインに則った会場の設営方法などの見直しを行った。

えどはくカルチャーは、講座ごとに当館内のホールなどに受講者を集めて実施する。このため、会場における感染防止対策を、実施のつど行う必要があり、再開に向けてこの点について検討を重ねた。

カルチャー再開後の対策として、受付や演台への飛沫防止用スクリーンの設置、座席の間隔を表示したサインの掲示などを講座のたびにに行った。また、受付を待つ間や退場時における過密状態を回避するため、受講者へのアナウンスを徹底し、間隔を空けるよう促した。従前と比べて、会場内における設営準備と注意喚起が大幅に増加したが、受講者の協力のもと、感染防止対策と講座の実施を両立させた。

2022年(令和4)度以降は、大規模改修工事で長期休館となったため、外部の施設にて、上記のような感染防止対策に取り組みつつ、継続して講座を実施している。

(江戸東京博物館 都市歴史研究室・田中実穂)

【特別展示室】

2回の臨時休館に伴い、特別展示室では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、予定されていた展覧会の会期を変更しつつ、国内外の博物館と調整をしながら無事に借用・展示を行い、実施した。また、感染拡大による一時事業休止期間中にはバーチャルリアリティ(VR)による展覧会をオンラインで鑑賞できる環境を提供し、展覧会鑑賞の新たなモデルを構築した。一方、医療従事者及び生活を支えてくださるすべての方々への感謝の気持ちを込めて、当館で所蔵する青色のコレクションを「特別企画『青』でみる江戸東京」として紹介した。

2020年(令和2)5月には公益財団法人日本博物館協会から「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」が提言され、展示空間における換気、入場時のマスク着用・手指衛生などの感染症対策や対人距離確保のため必要に応じて入館制限を行うことが示された。当館では同ガイドラインのほか、対人距離確保のためチケットの事前予約制の導入、マーカーの設置などによる十分な間隔を空けた整列を促すなど、人が密集しないよう、感染防止対応を行った。また、接触を最小限にするため、展示室では展示作品リストの配布を中止し、QRコードでのダウンロードを推奨するなどの対応を行った。

当館ではコロナ禍を契機として博物館・美術館の「展示」「教育・普及」のあり方を改めて模索、再考しながら継続して今後も特別展を開催していく予定である。

(江戸東京博物館 事業企画課 展示企画係・朴美姫)

【たてもの園】

分館であるたてもの園では、財団内他施設とは異なり、都立動植物水族園、文化庭園などと同様の臨時休園措置となった。2020年(令和2)度においてはおよそ5か月間、2021年(令和3)度においてはおよそ4か月間の休園期間があった。当園は、実物大の建造物と共にそれらを活用しての季節に応じた体験型の事業が特色であるが、体験型の事業に関しては、休園中は当然のことながら、かろうじて開園できた期間においても時勢に鑑みことごとく実施を見送らざるを得なかった。

休園中は職員も在宅勤務が推奨されたが、業務遂行にあたっての情報伝達の方法やPC環境の整備などの対応とともに、来るべき再開園に備えて園内で密を生まない観覧環境の方法、入園券の事前予約などの準備に追われた。また資料である建造物のメンテナンスは休園中でも継続しなければならず、特に梅雨時は建造物内に風を通すなど、職員が交代で行った。一方、そのようななか、職員でアイデアを出し合い博物館として提供できるウェブサイト上で楽しめるワークシートなどを配信した。さまざまなコンテンツの制作の構想は貴重な時間であり、配信できたことは今後の博物館活動を考えるうえで大きな収穫であった。

(江戸東京たてもの園 事業企画課・高橋英久)

◆デジタル活用の加速

江戸東京博物館と江戸東京たても園のデジタルコンテンツの特徴として、体感性の追求がある。その事例として、まず、江戸東京たても園が2017年(平成29)に公開した「360度パノラマビュー」が挙げられる。これは70,000m²に及ぶ広大な園内に立ち並ぶ30棟の復元建造物の内部を、ウェブサイト上でカーソルを操作して閲覧するコンテンツで、非公開部分を含めて360度の画角で眺める臨場感のある画像が好評を得た。江戸東京博物館でも、2018年(平成30)におよそ9,000m²の常設展示室を紹介した同名のコンテンツを公開した。

体感性の更なる向上の試みに、「Flythrough: The Edo-Tokyo Museum in 2022」がある。休館直前の江戸東京博物館常設展示室を高精度ドローンで撮影、スピーディーな没入感ある映像で、広大な展示空間の全容を掴むことができるコンテンツとなっている。

また、特筆すべきものとして「ハイパー江戸博」がある。2022年(令和4)4月にリリースした江戸両国編は常設展示の縮尺模型「両国橋西詰模型」を3D撮影したデータを読み込んだ仮想空間上で、主人公を操作しながら江戸時代を学べるスマートフォンアプリで、博物館がゲームエンジンを本格的に使用した国内初のコンテンツとして価値を有する。

一方、江戸東京たても園では、現地で建造物内外における各部位の解説を可能とするために、空間内に解説データを埋め込む実証実験を行った。そこで複合現実(MR)技術と園の展

示手法との親和性が高いことが確認され、今後、本格的導入を目指していく運びとなっている。

江戸東京博物館、江戸東京たても園では、このようなデジタル技術を活用するほか、公式ホームページ上で蔵書検索、収蔵品アーカイブスを行い、各種の業務報告や教材などを提供するとともに、YouTubeを活用した資料解説動画の配信、SNSでの広報といった、既存プラットフォームも活用してきた。こうした活動は、2020年(令和2)の新型コロナウイルス感染症流行による行動制限下で加速し、事業に関する内容(ソフト)面での充実が図られた。今後も各種のデジタル技術を活用し、博物館活動の一層の充実を図っていく見通しである。



ハイパー江戸博 江戸両国編

◆長期休館——2025年度(予定)のリニューアルオープンに向けて——

2022年(令和4)	2月5日～3月31日	江戸東京博物館休館前イベント「またね!江戸博」開催
	3月14日～3月31日	大規模改修工事に伴う図書移動のため図書室休室
	4月1日～	大規模改修工事に伴い全館休館
	10月11日	東京都江戸東京博物館リニューアル準備室を開設
2023年(令和5)	3月20日	リニューアル準備室での図書室予約閲覧サービスをプレオープン(土日祝休室、1日3枠、各枠は3席まで予約可能)
	4月3日	リニューアル準備室での図書室予約閲覧を正式オープン

江戸東京博物館は1993年(平成5)の開館から約30年が経過し、設備をはじめ施設全体の経年劣化が進んでいることから、全面的な設備機器更新などの大規模改修工事を行うため、2022年(令和4)4月1日から2025年(令和7)度中(予定)まで休館することとなった。

改修工事にあたって、常設展示室内や収蔵庫内の資料、図書資料の移動が行われることとなった。またパリやソウルなど海外での展覧会や、近隣のホールでの公演など、他会場を使用して事業を実施している(p.50 国際交流展、p.52 伝統芸能公演を参照)。

ここではリニューアル準備室への移転、資料移動、図書資料の移動、そして2022年(令和4)度から本格的にはじまった「えどはく移動博物館」について紹介する。



大型資料を搬入する様子

【リニューアル準備室への移転】

大規模改修工事に伴う長期休館が近づき、来館者数はコロナ禍以前に迫る数に回復しつつあった。休館前企画として江戸博に向けたメッセージを募ったコーナーには、リニューアル後の来館を待ち望む声など多くのメッセージが集まり、再開館への期待度の高さがうかがえた。2022年(令和4)3月31日の最終日は、藤森館長をはじめ職員や館の運営を支えてきた案内・警備・設備・清掃などのスタッフが出口に整列し、最後のお客様の退館までお見送りのごあいさつを行った。

休館に入り改修工事へ向けた作業が本格化し、展示資料や3階江戸東京ひろば屋外展示物の移動及び什器備品類などの撤去を進めた。一方、本館工事期間中の業務拠点となる仮設事務室が敷地内に完成し、3日間にわたる本館からの引越しを経て、2022年(令和4)10月11日に「東京都江戸東京博物館リニューアル準備室」を開設した。本館改修工事が完了するまでの間は、再開へ向けた準備や休館中イベントなどのさまざまな業務を準備室で行っていくこととなる。(江戸東京博物館 管理課 管理係・藤原百合子)

東京都江戸東京博物館リニューアル準備室 概要

地上1階建 敷地面積2,946.13㎡ 建築面積1305.71㎡
館長室、副館長室、事務執務室、閲覧室、資料図書整理室、資料保管室、職員図書室、会議室など

【資料移動】

博物館にとって収蔵している資料は、その中核をなすものであるが、大規模改修の工事期間中は収蔵庫の環境が大きく変化することから、約34万点の収蔵資料についてはすべて館外へ移動することとなった。移動にあたっては温湿度の環境はどうか、セキュリティを確保できるのかなど、博物館の収蔵庫と極力環境の変化が少ない場所を検討し選定した。

資料の移動は2019年(平成31)1月から開始し、2022年(令和4)10月の移動終了までに3年半以上を費やした。移動が長期にわたった理由は、全資料のコンディションチェックを行い、輸送に耐えられるよう資料の状態に適した梱包を施したためである。また、展示室で長期にわたりケース外で展示していた資料については、付着している虫菌類を防除する燻蒸という処理も行うなど、収蔵庫と同等の環境で管理できるよう注意を払った。

休館中は、通常展示で使用するため点検が難しい資料などについて、調査や修復をするなど、資料の状態を見ながら保管管理する予定である。また、江戸東京博物館に資料を戻す際、よりよい保管環境で収蔵できるよう、保管具の研究や、資料の形態などを考慮した収蔵方法も検討していく。(江戸東京博物館 事業企画課 資料係・眞下祥幸)

【図書移動】

当館の収蔵資料のうち、4階収蔵庫と7階図書閲覧室及び書庫に分散して保管されていた当時約26万点の図書資料は、大規模改修工事に伴いすべて外部倉庫へ移すことと

なった。

移動へ向けた作業は2019年(令和元)6月から開始した。まず、収蔵庫の図書資料約2万点の蔵書点検とコンディションチェックを行い、輸送や長期間の密閉で資料が劣化しないよう、ステーブルなど留め具の除去やクリーニングを施したうえで2020年(令和2)7月に梱包・搬出が完了した。7階の図書資料約24万点は2021年(令和3)10月から蔵書点検を開始し、収蔵庫と同様にそれぞれの図書に合わせた処置を施した後、2022年(令和4)9月まで段階的に梱包・搬出した。

これらの図書資料は展示だけでなく、一般利用者の閲覧にも供しているため、図書室を開室しながらの作業はさまざまな調整事も多く、困難に見舞われた。また、折悪しくも新型コロナウイルスの蔓延期と重なったため、緊張の解けない日々が続いたが、事故もなく無事すべての図書資料の移動を終えることができた。

休館中はリニューアル準備室にて予約制で図書室を開室しつつ、江戸東京の歴史と文化に関する調査研究の情報拠点として多くの方にご利用いただけるよう、リニューアルオープンへ向けて準備を進めている。

(江戸東京博物館 都市歴史研究室・小宮山めぐみ)

【移動博物館】

長期休館中も江戸東京の歴史や文化に親んでもらえるよう「えどはく移動博物館」を開催。学芸員が都内のさまざまな場所に出向き、ワークショップや出張展示を行った。

2017年(平成29)度から都内小学校や特別支援学校(視覚障害)、高齢者福祉施設で試行を重ね、いよいよ休館期間に突入した2022年(令和4)度から本格的に事業を開始した。9月に実施先の募集を行い、小学校や特別支援学校を中心に、甲冑や浮世絵の版木の複製、歌舞伎の効果音で使われる鳴物、炭火アイロンや黒電話など、さまざまなアイテムを使ったプログラムを開催している。

(江戸東京博物館 事業企画課 展示事業係・津田紘子)

2017年(平成29)度 都内小学校(足立区)1件

2018年(平成30)度 都内小学校(小金井市)、
都立特別支援学校(視覚障害)、
高齢者福祉施設 各1件

2019年(平成31)度 都内小学校(日の出町)1件

2021年(令和3)度 都立特別支援学校(視覚障害)1件

2022年(令和4)度 都内小学校16件、特別支援学校
(視覚障害2件、知的障害1件)

